

3月2日（月）に新型コロナウイルス感染症への本学の対応（第二報）を送信しましたが、読んでもらえたでしょうか。

北海道での感染者は3月6日時点で90名となり、この1週間で約10名の新たな感染者が見つっております。札幌市での感染者も23名となり、市内の他大学職員の感染も判明しております。今後、検査数が多くなると当然、感染者数も増加しますが、これは想定内であり、パニックになる必要はありません。症状のない不顕性感染や無症候性感染者の存在を考えると、検査で陽性となった感染者数の数倍～10倍位の方がすでに感染していると推定されます。しかし、8割以上の若年感染者は軽度の症状のみで軽快すると考えられますが、問題は、高齢者や糖尿病などの基礎疾患を有している人、免疫能が低下している人（若年者もストレス等により一過性に免疫能が低下します）が感染すると、重症肺炎（ウイルス性の間質性肺炎）へ進展するリスクが高いと考えられます。

そこで、若い学生の皆さんに今一度、**感染しない、感染リスクを限りなく0にする、感染源にならないための感染防止策を必ず実施してほしい**と思います。北見での集団感染においては、たった1人の発熱患者（感染者）が無理をして展示会場に参加したことがすべての始まりと考えられています。学生の皆さんに是非実行していただきたいことは次のことです。何回も同じことと思うかもしれませんが、たった1回の不注意から感染して出席停止や入院による学業遅延、更には大学閉鎖や臨地実習お断り、就職待機などの最悪のシナリオを招く可能性もあります。医療専門職者を目指す学生として是非**自覚ある行動**をお願いしたいと思います。

#### 1. 不要不急の外出はしないこと。

どうしても外出するときは、**必ずマスクを着用**し、人込みをできるだけ避け、公共施設や店舗等の入口においてあるアルコール消毒薬を見つけたら、スタンダードプリコーションに準じた**手指衛生を小まめに実施**してください。帰宅直後も手指衛生を必ず実施してください。

#### 2. 旅行、催し、イベント等への参加は感染リスクを高めます。

不特定多数者との接触機会が多くなればなるほど、感染リスクが高まります。ライブハウス、クラブ、カラオケボックス、スポーツジム、自宅等での飲み会など、換気の悪い閉鎖空間内に、もし、感染者が参加していれば感染リスクは限りなく高まります。免疫能が十分にあるため発症に至らなくても、上気道にいるウイルス量は発症者と同程度という報告もあります。

自分が感染していることを知らずに他人へ感染させることも十分に考えられますので、とにかく他人と至近距離で一定時間以上交わることの危険性を十分承知してほしいと思います。

#### 3. 帰省する際にも注意してください。

春休みで実家へ戻ることもあると思います。実家には高齢者の方もいらっしゃいますので、手指や衣服等によるウイルスの持ち込みには十分注意して、上記の感染防止策を講じてください。

#### 4. 体調変化を感じたらどうするか。

新型コロナウイルスに感染してもインフルエンザ等のかぜ症候群の初期症状と区別が付きません。**毎日検温して数日は自宅で様子を観察**してください。不安になってすぐに医療機関を受診するのは却って危険ことがあります。もし、全身倦怠感が次第に強くなったり、37.5℃以上の発熱が持続するようであれば、下記の札幌市保健所内の新型コロナウイルス一般相談窓口で電話相談してください。 TEL：011-632-4567（9：00～21：00 土日祝も受付）